

許田の手水

昔ぬ沖縄をて、同ぬ村ぬ親ぬ定みたる相手とに一びちすしやいびーたん。他所ぬ村ぬ
つ人とか、また身分ぬ違える侍とぬに一びちや、考一ららん事やいびーたん。
ある日、首里ぬ若さる侍山戸ぬ名護ぬ許田許田んかいぬ道、急じよーいびーたん。

山戸：おほー、うれしん暑さぬ。喉ぬ乾きて。おほー、くれ一見事ぬ清ら水！おー、飲み欲
さしが、手ぬ汚れて。

側そば見んちゃくと、清らさるみやらびぬ水汲くどーいびーん。

山戸：あんし、清らさるみやらび！

山戸や二目み一ちゆつし、恋心抱いちやびたん。

山戸：あのー、みやらびよ、水飲み欲さしが、くまねー、ぬに一ぶぬ代わいないしらがね
ーらん。手し掬いてんちしん、我一手手や汚りまで。どーでん、うんじゅぬ手まつし掬いて、飲
ままちとらんさんがやー。

玉津：初みて行逢は逢むゆる御方んかい、手水うさぎーるくとーないびらん。

昔から、手水や志情き通わする時にする習わちやいびーたん。

山戸：ま、待まつまちとらし。水みつみ飲まちとらさんだれー、我んねーくぬ川んかい飛びとこ
もも込むくとんかいないん。

玉津：仕方し一かたねーやびらん。あんせー、くりし宜ゆたさいびーみ。

山戸：ん、ん、ん。はあー、なーちけーんぬ飲まちくり。うんじゅぬ名なや何めんで？

玉津：あいえー！うー。玉津たまちーんで言いちよいびーん。

かんし、二人や思むよーいる仲なかんかんないびたん。やしが、玉津ぬ村むらをてー、身分みぶんぬ当あた
らんに一びちや許ゆるさらんくと。

村人：玉津よ、百姓たまちーぬ女ひやくしょーぬ分界いなぐ分ぶんぜーぶんうさむれーはじしちんかすんでつしぇー、恥はず切きらや

一。

むら いきが す い さむれー
村ぬ男んあらん、首里ぬ侍とまじゅんないん**い**。胴ぬ丈知らんや—**ひやー**。

村人:許さん!

あんし、玉津や浜**ふ**きて打ち首んかいないびたん。

母親:どーでん、どーでん、助けて呉みそーり。つ人思いる心ー誰が止みーるくとない
びーが。

うぬ時、山戸やみやらびぬ打ち首**あきらみし**ってあきらりーし知っち、早馬かきたんで
んとーいびーん。

山戸:玉津、なましぐに助けーがし**行ちゆく**と、ちゃーがな間に合てくり。

????…はい…

山戸:玉津!玉津助きてくれ**呉りー**!ちゃーしん玉津切んで言らー、我んにんまじゅーん
切るぐと。

山戸:玉津!

処刑人:~~二人~~うぬ噂ー、時ぬ経ちーね、消り**ゆ**ーる物やいびーん。くぬみやらびや首刎た
んでーちうんぬきーくと、なまぬ内に、二人つし何処なんかい行ちゆる事**如**。

二人や何処な誰ん知らん所をモテて、幸しに暮らちやんで言る事やいびーん。